



【韓国】 総合指数は週間で3.0%安と5週続落、今週は買い戻しが入りやすいか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で3.0%安と5週続落。総じて売り優勢の展開で、前週の13日から19日までは5営業日続落となり、21年11月の昨年来安値に接近する水準まで下落した。米株安を受けて韓国市場にも売りが波及。米金融政策の早期の正常化観測がくすぶる中で米長期金利が上昇し、ハイテク株、景気敏感株を中心に売りが膨らんだ。北朝鮮が挑発行為を続けたことで地政学的リスクへの懸念も地合いを冷やした。20日は中国の実質的な利下げを好感して反発したものの、21日は再びリスク回避の動きが加速。サムスン電子などのハイテク株が下げを主導し、約1年ぶりの安値を更新して週の取引を終えた。今週は反発狙いの買いが入りやすいか。国内では10-12月期のGDPや12月小売売上高など主要経済指標の発表が続く予定。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は5.7%安と大幅に3週続落、今週は神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で5.7%安と大幅に3週続落。米早期利上げ観測やウクライナを巡る地政学リスクが嫌気された。指数は週明け17日に前週末比0.7%安でスタートすると、18日は7.3%安と2020年4月以来の急落。米国の早期利上げ観測やウクライナ情勢の緊迫化が嫌気された。19日は原油高を追い風に3.5%高と5日ぶりに反発し、20日も2.5%高と続伸したが、21日は欧米株安や原油相場の下落を受けて3.4%安と反落した。ルーブルが対ドルで1.6%下落したことも米ドル建ての指数を押し下げた。個別では産金のポリュスが3.2%高となった一方、エネルギーのノバテクが7.7%、スルグトネフテガスが7.3%、ガспロムが7.2%、ロスネフチが6.7%下落した。今週は欧米株や原油相場に左右される神経質な展開か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は週間で1.5%安と続落、今週は押し目買いで反発か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.5%安と続落。週前半に急落し、その後に巻き返したが、先週末の水準に届かなかった。週明け17日は主力大型銘柄に利益確定売りが強まり、指数は前週末比2.9%の大幅安。18日は主力大型株が買い戻されたものの、中小型株が売られ、指数は1.0%安と前週から4日続落となった。その後は押し目買いが強まったことで3日続伸したが、戻りは限定的だった。個別銘柄では、金融のベトナム投資開発銀行とベトコムバンクがそれぞれ7.0%上昇し、食品加工のマサン・グループが4.3%高となった一方、ゴム製品のベトナム・ラパーが9.2%安、金融のSSI証券が8.5%安、鉄鋼のホア・ファット・グループが6.4%安、公益のペトロベトナム電力総公社が5.9%安となり、指数を押し下げた。今週は押し目買いで反発か。

▼指数チャート





【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.5%高、週末に終値で過去最高値を更新

ジャカルタ総合指数は週間で 0.5%高と反発。週末に終値で 6700 ポイント台に到達し、2 カ月ぶりに過去最高値を更新した。週初の 17 日は、21 年 12 月の貿易収支が市場予想を大幅に下回った影響などで、指数は 3 営業日ぶりに反落。18 日は米長期金利の上昇を受けて、同国の利上げペースが加速するとの見方が広がった影響で続落した。19 日には終値で 6600 ポイントを割り込んだが、20 日に反発すると、21 日は前日に開催された中央銀行の定例会合で、ペリー総裁が 3 月に政策金利を引き上げる方針を示した効果で銀行株が買われ、指数は前日比 1.5%高と続伸している。今週は上値追いが継続するかが焦点。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.4%高、今週は 3300 ポイント到達に期待

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.4%高と 4 週続伸。狭いレンジでの値動きが続いた 1 週間だった。週初の 17 日は、21 年 12 月の非石油地場輸出が前年同月比 18.4%増と 4 カ月連続で 2 桁の伸びを示したほか、中国の 10-12 月期の GDP 成長率と 12 月の鉱工業生産が市場予想から上振れた効果で、指数は 8 営業日続伸。18 日は小幅に反落したものの、19 日に買い戻されると、その後は米 FOMC を翌週に控えた様子見が広がる中、21 日まで 3 日続伸して取引を終えている。今週は 24 日の 21 年 12 月の CPI に続き、26 日には同月の鉱工業生産が発表される予定。内容次第で節目の 3300 ポイントを試す展開か。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.2%安、米国の利上げペース加速を警戒

SET 指数は週間で 1.2%安と反落。週初に反発したが、その後は週末まで 4 日続落と軟調だった。17 日は前週末に下落した反動で買い優勢の展開となった一方、18 日は原油価格が約 7 年 3 カ月ぶりの高値を更新したものの買い材料視されず、米国の利上げペース加速に対する懸念が広がった影響で金融株が売られ、指数は前日比 1.0%安と反落。その後も買い材料に乏しく、じりじりと下値を広げた。21 日に発表された 21 年 12 月の貿易収支（通関ベース）は市場予想から下振れし、2 カ月ぶりの赤字となった。今週は 26 日に 12 月の鉱工業生産が発表される予定で、4 カ月連続で前年同月の水準を上回るかが焦点。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.8%安、今週は 28 日に 21 年 12 月の貿易統計発表

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 1.8%安と反落。前週末から下げ止まらず、週末まで 5 営業日続落と軟調だった。週初の 17 日は、エネルギー株と銀行株の利益確定売りが指数下落を主導。祝日を挟んだ 19 日は、中央銀行の金融政策決定会合を翌日に控えた様子見で売り優勢の展開となった。20 日は政策金利が市場の予想通り 1.75%に据え置かれたことを受けて銀行株が売られると、21 日は前日からほぼ横ばいで取引を終えている。今週は 28 日に 21 年 12 月の貿易統計が発表される予定で市場予想を上回れば好材料。外部要因では、米 FOMC や同国の 10-12 月期の GDP 速報値が指数を左右しそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。